

近畿病院図書室協議会第112回研修会

研修部

日時：2006年12月1日（金）10：00～16：30

場所：関西労災病院 4階大会議室

プログラム：

1. 臨床研修指定病院の蔵書構築
洛和会音羽病院 桑村純子氏
2. 施設（図書室）紹介
関西労災病院 寺澤裕子氏
3. 初心者のためのブックコーティング講習
フィルムルックス株式会社 岡部健一氏
4. 看護研究支援の模索
東京都老年学情報センター 宮本孝一氏
5. 「MEDLINE with Full Text」の紹介
EBSCO Publishing Japan 鈴木智之氏
6. 食事療法と薬物療法との葛藤
—エビデンスはどちらにあるか？
帝塚山大学 現代生活学部 食物栄養学科
柳 元和氏

参加者数：29名（会員26名、非会員3名）

研修部では、年度当初の企画段階でテーマを「Electronic Resources LibrarianのためのEBM・EBN・EBH 情報解題」「研修医受け入れのための必備図書解題」としていました。そのため、2006年度2回目の研修会は、どのような情報源があるのか図書館担当者がまず知ることからはじめ、どのようにして図書館利用者に案内し、図書館蔵書として構築整備していくべきかなどを、講師と共に考えていくプログラムとしました。

1. では、2006年度「蔵書構築」研究班より、臨床研修医を受け入れている施設へのアンケート調査結果から現状報告と分析報告がされまし

た。事前に調査用紙がそれぞれの手元に届けられた際、臨床研修医を受け入れる側に「受け入れ費用」が支払われていることに驚いた方も少なくはなかったと思われます。「実際に何を整備していったらよいのか、具体的な書名を知りたい」との要望には、配布資料に添えられた書名リストがすぐに役立つと思われました。

2. は、研修会終了後に予定している「図書室見学」の事前説明でした。研修会の会場を会員施設に提供していただくと、自館以外の病院図書館を実際に見ることのできる絶好の機会となります。IT環境も整い、よく整備された図書館でした。

3. は、9月30日に開催した第22回勉強会にて「製本と補修」の大変さを体感した立場から、破損を予防、あるいは破損を最小限に食い止める手立てに「ブックコーティング」が有効ではなかろうかとの趣旨で企画しました。熟練技術者2名による実技指導は、初心者はもちろん、見よう見まねでやってきた方にも応用できるコツが満載でした。当日参加者のみに配布された図解やグッズが好評でした。今後も要望があれば小規模勉強会として開催できればと思います。

4. では、図書館利用の少なかった看護師に対し、図書館側から看護研究指導を実施していった事例と、その働きかけによる新たな図書館サービスの展開を語っていただきました。図書館の中だけに居て利用者からのアクションを待っているのではなく、利用者の傍らに積極的に出向いていこうとする姿勢、しかも非常勤職員という先の見えない環境下で果敢に職務を遂

行する姿勢にとっても感服しました。その仕事ぶりは、東京都老年学情報センターのホームページからも垣間見ることができます。機会があればぜひアクセスしてみてください。

5. は、研修会開催前に EBSCO Publishing Japan より全会員宛へ直送されていた製品案内の詳細なプレゼンテーションでした。病院図書館向け Online Journal パッケージにもなっており、ぜひ無料トライアルを活用していただきたいと思います。

6. では、以前に(第91回研修会:メインテーマ「司書力をアップしよう!」1999年8月開催、会誌19巻4号1999年11月に収録)EBM情報源としてのコクランライブラリーを紹介していただいた講師に再登場していただきました。当時は耳新しかったEBMという言葉が、7年後の今は耳障りなく定着しているものの、その成果たるべき診療ガイドラインについては「どうも怪しい仕上がりになっているようだ」との鋭い

指摘がありました。規範となるべき指針が揺らいでいるかもしれない現状で、最新・最良の医療情報を提供していくべき病院図書館は、どう対処していくべきなのかと考え込んでしまいました。

それぞれの講義内容については、研修会開催後の2007年1月末に全会員宛に配布した資料を参照してください。研修会への参加・不参加にかかわらず、疑問点・共感点などがありましたら、研修部にお寄せください。今後の研修会・勉強会企画に反映させていきたいと思います。また、今後も研修会・勉強会内容の一部について会誌「病院図書館」に収録されることがあります。今後の会誌にご注目ください。

(文責：中村雅子／大阪府立母子保健総合医療センター)